

学会員（教員）研究動向 [2010.4～2011.3]

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
赤井 正二	論文(単著)	「趣味の旅行」と「モダン・ライフ」—大正・昭和前期における旅行文化の展開と旅行論—(『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 1-20頁	2011.3
秋葉 武	論文(単著)	「韓国の介護保険制度と市民社会(NPO・NGO、労働組合)(上)」(『いのちと暮らし研究所報』31号、いのちと暮らし研究所) 15-19頁	2010.5
	論文(単著)	「韓国の介護保険制度と市民社会(NPO・NGO、労働組合)(下)」(『いのちと暮らし研究所報』32号、いのちと暮らし研究所) 31-34頁	2010.8
	論文(単著)	「地域づくりに参加する韓国の生協—「ソンミサン・マウル」における協同組合民主主義の継承—」(『協同組合経営研究誌 にじ』632号、社団法人JC総研) 68-80頁	2010.10
	論文(単著)	「協同組合における「共済政治」—歴史的視点から—」(『立命館産業社会論集』第46巻第3号) 27-38頁	2010.12
	研究発表等(単独)	「韓国の社会的企業の現状と課題」(日本協同組合学会第30回大会 個別論題報告、於：佐賀大学)	2010.10
荒木 寿友	研究発表等(共同)	「道徳教育」根幹の学校づくりを人権の視点から考える」(指定討論 荒木寿友、日本道徳性発達実践学会第10回大会、於：佐賀大学)	2010.11
荒木 穂積	訳書(共監訳)	カタルツィナ・ハヴァースカ、アミ・クリン、フレッド・R・フォークマー編著『乳幼児の自閉症スペクトラム障害—診断・アセスメント・療育』(竹内謙彰・荒木穂積監訳、クリエイツかもがわ) 全438頁	2010.8
	論文(単著)	「東アジアの発達研究の現状と課題」(海外最新事情)(『応用心理学のクロスロード』第1号、日本応用心理学会) 30-32頁	2010.6
	論文(単著)	「保育困難から専門家への相談に至るまで」(秦野悦子・山崎晃編著『保育の中での臨床発達支援』シリーズ臨床発達心理学第3巻・理論と実践、ミネルヴァ書房) 90-96頁	2011.3
	論文(単著)	“A Basic Perspective of Development of Remedial Education Program for Children with Autism Spectrum Disorder Trough Analysis of Historical Transitions” (Creating New Science for Human Services: An Anthology of Professor of Graduate School of Science for Human Services, Graduate School of Science for Human Services) pp.1-20.	2011.3
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム幼児のプレイセラピー場面での遊びの分析—「ふり遊び期」から「ごっこ遊び期」にかけて—」(橋本奈緒子ほか『心理・教育相談センター年報』第9号、立命館大学心理教育相談センター) 42-64頁	2010
	論文(共著)	“Brief report of treatment and education for children with autism in China”, by Zhang Rui and Araki Hozumi (Collect Papers from Human Services Research, Ritsumeikan Human Services Research 20, Human Services Research) pp.111-125	2010
	論文(共著)	「イエール大学子ども研究センターと自閉症研究」(竹内謙彰・荒木穂積共訳)(竹内謙彰・荒木穂積監訳、カタルツィナ・ハヴァースカ、アミ・クリン、フレッド・R・フォークマー編著『乳幼児の自閉症スペクトラム障害—診断・アセスメント・療育』、クリエイツかもがわ) 425-432頁	2010.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
荒木 穂積	単編著	『平成20年度～22年度 アジア・アフリカ学術基盤形成事業（日本学術振興会）東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究』（平成20年度～22年度 最終研究報告書, 立命館大学人間科学研究所）全182頁	2011. 3
	学会発表等 (共同)	「ベトナムの自閉症教育の現状と求められる国際協力」(Present status of special education for children with autism and required international cooperation in Vietnam) (日本特殊教育学会第48回大会, 於: 長崎大学)	2010. 9
	学会発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究(2)―自閉症スペクトラム児と知的障害児の比較検討―」(自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究(2)―自閉症スペクトラム児と知的障害児の比較検討―, 於: 松山東雲女子短期大学)	2010. 5
	学会発表等 (共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(1)」(日本発達心理学会第20回大会, 於: 東京学芸大学)	2011. 3
	学会発表等 (共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(2)」(日本発達心理学会第20回大会, 東京学芸大学, 於: 東京学芸大学)	2011. 3
	学会発表等 (共同)	“Quantitative dynamic assessment of Asperger’s Disorder through a Digital Pen drawing exploration” (CIP (The 1st Global Congress for Consensus in Pediatrics & Child Health, Paris))	2011. 2
有賀 郁敏	論文(単著)	「ドイツにおける社会国家と余暇・スポーツに関する一考察―ミヒャエル・クリューガー論文に対する一つの応答」(『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 111-132頁	2011. 3
	翻訳(単訳)	C. アイゼンベルク著「スポーツ史における社会学, 経済学そして『文化経済学』のアプローチ―新しい方向のための提言」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 197-206頁	2010. 6
	翻訳(単訳)	M. クリューガー著「ドイツスポーツ史の発展に向けた10の命題―クリスティアーネ・アイゼンベルク『スポーツ史における社会学, 経済学そして『文化経済学』のアプローチ―新しい方向のための提言』に対するコメント」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 207-214頁	2010. 6
	翻訳(単訳)	C. アイゼンベルク著「スポーツ史の対象範囲と政治的な目標設定―ミヒャエル・クリューガーの『コメント』に対するコメント」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 215-218頁	2010. 6
	翻訳(単訳)	M. クリューガー著「ドイツスポーツの60年」(『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 87-109頁	2011. 3
	その他(単著)	「スポーツ史の『新たな方向』をめぐるクリスティアーネ・アイゼンベルクとミヒャエル・クリューガーによる誌上論争」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 193-195頁	2010. 6
粟谷 佳司	著書(共著)	マーシャル・マクルーハンほか著『KAWADE 道の手帖 マクルーハン』(「トロント・コミュニケーション学派からトロントのメディア文化研究へ」, 河出書房新社) 69-75頁	2011. 2
	論文(単著)	「限界芸術論からのメディア文化史―鶴見俊輔, フォーク音楽, ローカル文化―」(『メディア・コミュニケーション』61号, 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所) 173-182頁	2011. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
池内 靖子	論文(单著)	“Counter-Narrativity and Corporeality in Kishida Rio’s Ito Jigoku” (Performative Body Spaces: Corporeal Topographies in Literature and the Visual Arts. Amsterdam-New York: Rodopi) pp.105-115	2010.11
	翻訳(单訳)	ダイアン・リチャードソン「セクシュアリティの変容?—エイリアンの他者から善良なゲイ市民へ」(木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会—男性史・軍隊・セクシュアリティ』, 第8章, 旬報社) 193-214頁	2010. 6
石倉 康次	論文(单著)	「今, 求められる介護保障とは—介護保険10年を終えての検証—」(『総合社会福祉研究』37号, 総合社会福祉研究所) 2-18頁	2010.12
石田 智巳	論文(单著)	「新自由主義の20年間を総括する」(『たのしい体育・スポーツ』号外, 学校体育研究同志会) 8-12頁	2010. 8
	論文(单著)	「球技実践と球技研究の未来を創造しよう」(『たのしい体育・スポーツ』号外, 学校体育研究同志会) 2-5頁	2010.12
	その他(单著)	「京都大会を振り返る」(『たのしい体育・スポーツ』, 学校体育研究同志会) 30-31頁	2010.11
市井 吉興	論文(共著)	「マルクス主義的スポーツ研究の課題と展望: 日本とイギリスの研究からその変遷と課題を素描する」(市井吉興・山下高行『スポーツ社会学研究』19巻第1号, 日本スポーツ社会学会, 創文企画) 55-72頁	2011. 3
伊藤 隆司	論文(单著)	「情報時代の文学教育」(『語り合う文学教育』9号, 語り合う文学教育の会) 2-7頁	2011. 3
伊東 寿泰	書評(单著)	「宮平望著: ヨハネによる福音書私訳と解説」(『本のひろば』629巻, キリスト教文書センター) 26-27頁	2010. 7
乾 亨	論文(共著)	“Creazione di luoghi per anziani con lo scopo di creare una “vita attiva” — Studio comparativo fra centri sociali in Italia e machi-no-engawa in Giappone” Koh INUI, Yasuhiro ENDO, Shinobu FUJITA, ANCeSCAO (Associazione Nazionale dei Centri Sociali-Comitati Anziani e Orti) HP 掲載, http://www.centribo.it/page/i_centri_anziani_on-line/centro_g_costa/documenti	2010.11
	書評(单著)	「鳥越皓之・家中茂・藤村美穂著『景観形成とコミュニティ—地域資本を増やす景観政策』, 農文協, 2009年(コミュニティ政策学会編『コミュニティ政策8』, 東信堂) 189-194頁	2010. 7
	研究発表等(講演)	「みんなが安心して暮らせるまちにしようやないか in 福山’10—京都における地域コミュニティ活性化の動き」(福山市「協働のまちづくりフォーラムふくやま2010」基調講演, 於: 福山市役所)	2010. 8.22
文 楚雄	学会発表(単独)	「中国映画の訳名から見た中日同形語」(中国語彙学学会第8回全国大会, 中国・蘇州大学)	2010.11.20
漆原 良	調査報告(单著)	「アリゾナ州フェニックス市およびカリフォルニア州サンディエゴ市におけるスポーツ産業展開の一端—スポーツ社会専攻短期留学プログラム開発を目的とした調査報告—」(『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 133-149頁	2011. 3
江口 友朗	論文(单著)	「『マネジメント』とその世界: レギュレーション・アプローチの展開を視点にして」(『現代思想』8月号, 青土社) 216-228頁	2010. 7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
江口 友朗	研究発表等 (単独)	「制度論的ミクロ・マクロ・ループ論に基づく途上国分析の射程：アジア通貨危機後のタイにおける家計行動を巡る統計的実態を1例として」(法政大学経済学部学会・比較経済研究所共催第20回「経済サロン」)	2010.6
	研究発表等 (単独)	「タイの家計行動とその周辺：アジア通貨危機後の統計的傾向から」(第9回 Household Finance 研究会, 於：法政大学)	2010.7
	研究発表等 (単独)	「制度生成・選択を巡るミクロ的基礎の再検討：経験科学としての認知科学的なアプローチの行為論的基礎をベースにして」(進化経済学会第15回全国大会, 於：名古屋大学)	2011.3
	研究発表等 (共同)	「タイ王国における家計間送金の実態から見たインフォーマルな制度の機能：バンコク都でのマイクロ個票調査に基づいて」Sinudom Arissara との順不同報告。(江口友朗・Sinudom Arissara (順不同), 進化経済学会第15回全国大会)	2011.3
遠藤 保子	著書(共編著)	寒川恒夫主編『体育・人類・文化』(「スポーツと開発教育—モーションキャプチャを利用したナイジェリアの舞踊を事例とした教材と指導計画—」, 北京体育大学出版社) 224-230頁	2010.9
	著書(共編著)	遠藤保子・細川江利子・高野牧子・打越みゆき編『舞踊学の現在—芸術・民族・教育からのアプローチ—』(「今日のアフリカにおける舞踊の伝承と保存—ナイジェリアの国立舞踊団を事例として—」, 文理閣) 147-161頁	2011.3
	論文(単著)	「スポーツ人類学と開発教育—モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊教材—」(『スポーツ人類学研究』12号, 日本スポーツ人類学会) 1-25頁	2010.12
	研究発表等 (単独)	「タンザニアの舞踊」(日本体育学会第61回大会, 於：中京大学豊田)	2010.9
	研究発表等 (単独)	「鶴見和子の舞踊観—1995年以降の鶴見和子文庫を中心として—」(第62回舞踊学会大会, 於：日本大学江古田)	2010.12
	研究発表等 (共同)	「アフリカの伝統的ダンスとブレイクダンス」(第1回アジアスポーツ人類学会大会, 於：東京)	2010.11
	研究発表等 (共同)	“Nigerian dance and motion capture” (International Motion Capture Symposium, 於：立命館大学)	2011.1
大谷いづみ	著書(共編著)	玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』(「自分らしく」死にたい?—安楽死・尊厳死) (有斐閣) 187-208頁	2011.3
	論文(単著)	“‘Good Manner of Dying’ as a Normative Concept: ‘Autocide,’ ‘Granny Damping,’ and Discussions on Euthanasia / Death with Dignity in Japan” (International Journal of Japanese Sociology (19巻1号)) pp.49-63	2010.11
	その他(単著)	「生命倫理」(『未来を拓く—ようこそ立命館へ』, 立命館大学) 90-91頁	2010.4
	その他(単著)	「いのちの教育」がはらむ矛盾 自己犠牲の死 称揚するな」(『朝日新聞』2010年4月9日朝刊)	2010.4.9
	研究発表等 (オーガナイザー)	「日本における「生命倫理の成立」再考—オーラル・ヒストリー調査の結果から」(第22回日本生命倫理学会研究大会, 於：藤田保健衛生大学)	2010.11
岡田 まり	論文(単著)	「行動変容—人は変わることができるか?—」(『臨床作業療法』7巻1号, 青海社) 12-16頁	2010.4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 茂樹	項目執筆 (単著)	『カウンセリング実践ハンドブック「ロールレタリング」』(竹下三隆 ほか, 丸善) 530-531頁	2010.10
	著書(共著)	『教師カウンセラー・実践ハンドブック』(上地安昭編著, 金子書房) 126-127頁	2010.12
	論文(単著)	「自棄的な女子学生に対するロールレタリングを用いた面接過程」 (['ロールレタリング研究』10巻, ロールレタリング学会) 17-27頁	2010. 8
	研究発表等 (単独)	「受刑者に対するロールレタリングを活用した教育プログラムの効果の 研究」(日本ロールレタリング学会第11回大会, 於: 中野サンプラザ)	2010. 8
	研究発表等 (単独)	「心理面接におけるロールレタリングの実際」(日本ロールレタリング 学会第11回大会, 於: 梅花女子大学)	2010. 8
	研究発表等 (単独)	「受刑者に対してエンプティチェア・テクニクとロールレタリング を併用した面接過程」(日本犯罪心理学会第48回大会, 於: 目白大学 新宿)	2010. 9
	研究発表等 (共著)	「LB 受刑者に対する社会復帰のための教育プログラム」(岡本茂樹・ 高田純治, 日本矯正教育学会第46回大会, 於: 中野サンプラザ)	2010. 9
小川 栄二	論文(単著)	「高齢者世帯の生活後退と社会的孤立」(['賃金と社会保障』Vol.1517, 旬報社) 23-37頁	2010. 7
	論文(単著)	「介護保険10年その流れと現実」(['住民と自治』569号, 自治体研究社) 10-15頁	2010. 9
	調 査 報 告 (共著)	「地域包括支援センターにおける介護予防・地域支援事業実施状況に 関する調査報告書」(高齢者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題研 究会) 36-45頁	2011. 2
	研究発表等 (単独)	「要援護高齢者の生活問題と潜在化の今日的特徴」(社会政策学会第 120回大会, 於: 早稲田大学)	2010. 6.19
	研究発表等 (共同)	「高齢者の孤立と貧困—『無縁社会』からの脱却をめざして—」(日本 弁護士連合会, 日本弁護士会館)	2011. 1.28
奥村 信幸	論文(単著)	「ツイッター議員 必要あればつぶやいていい」(私の視点×4) ('朝 日新聞』2010年4月14日朝刊)	2010. 4
	論文(単著)	「PEJ 編「2010年 米ニュースメディアの現状」報告から 激変する「ニ ュースの生態系」もう嘆いてばかりはいられない」(['Journalism』 241号, 朝日新聞社) 40-50頁	2010. 6
	論文(単著)	「新聞記者のための動画撮影講座 第1回〈企画から撮影〉新聞記事 をウェブ・ニュース映像にする」(['Journalism』245号) 70-79頁	2010.10
	論文(単著)	「新聞記者のための動画撮影講座 第2回〈演出から制作〉映像に音声 を加えてビデオ・パッケージにする」(['Journalism』246号) 74-84頁	2010.11
	論文(単著)	「新聞記者のための動画撮影講座 第3回〈マルチメディア展開へ〉 ユーザーの要求に応えるニュース・サイトへのヒント」(['Journalism』 247号) 70-81頁	2010.12
	研究発表等 (共同)	「「ザ・コープ」をどう観たか, 公開討論会」(「ザ・コープ」をめぐる シンポジウム, 上映を支持する会京都, 於: 京都シネマ)	2010. 7
小澤 亘	研究発表等 (単独)	“Comparative study on Volunteerism of the Youth in Japan, Korea and Canada: Focusing on the Function of Mandatory Volunteer Program” (ISTR (International Society for Third-Sector Research) 9th International Conference)	2010. 7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小澤 亘	研究発表等 (単独)	“Support Network for the Elderly Foreigner: A New Movement of Korean Old Comers in Kyoto” (Immigration in Multi-ethnic Contexts from International Perspectives)	2010.12
小原 豊	論文(単著)	「学び方・価値の教育, 道德教育と人間形成」(『授業研究のための日本の算数・数学教育理論』, 日本数学教育学会) 111-112頁	2010. 8
	論文(単著)	“Ways of Learning, Education with Value, Moral Education and Thinking for Oneself” (Journal of Japan Society of Mathematical Education (Ed.), Mathematics education theories for Lesson Study: Problem solving approach and the curriculum through extension and integration) pp.97-98	2010. 8
	論文(単著)	「ケースメソッドによる人文社会系学生の統計的リテラシー育成に関する試行」(『数学教育学会2010年度 秋季例会 数学教育学会誌』臨時増刊) 8-9頁	2010. 9
	論文(単著)	“Perspective of Case Method for Error Analysis in Prospective Teacher Training” (Proceeding of International Conference of Educational Research, Learning Community for Sustainable Development) pp.186-191	2010. 9
	論文(共著)	“Investigation of Experiential Learning in Higher Education in Japan: Focusing on the Career Design of Pre-Service Teachers” (Kazunori EDAHIRO, Yutaka OHARA, NUE Journal of International Educational Cooperation Vol.5) pp.67-71	2010. 9
	論文(共著)	“Effects of Case Method in Elementary Teacher Training: Approach to Authentic Classroom Practice” (Yutaka OHARA, Kazunori EDAHIRO, NUE Journal of International Educational Cooperation Vol.5) pp.61-66	2010. 9
	角田 将士	著書(共著)	『地理歴史科教育』(社会認識教育学会編, 学術図書出版) 6-16頁, 全190頁
論文(単著)		「教科教育学研究としての社会科教育史研究とは—諸研究の研究目的に着目して—」(全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』47号) 109-113頁	2010.12
論文(単著)		「戦後初期歴史教科書『くにのあゆみ』における歴史認識形成の論理—戦前国定国史教科書との断絶と連続性—」(全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』47号) 13-22頁	2010.12
論文(共著)		「社会科授業における「戦争と平和」へのアプローチ—単元「戦争とは何か」の開発を通して—」(角田将士・渡邊巧『立命館平和研究』12号, 立命館大学国際平和ミュージアム) 27-38頁	2011. 3
その他(単著)		「人と本でプレビュー アーカイブ “社会科60年” を覗く」(板倉聖宣著『歴史の見方考え方』仮説社, 1986年) (明治図書編『社会科教育』614号) 130-131頁	2010. 6
その他(単著)		「テスト嫌いっ子も前向きに取り組む “新しいフォーマット” の開発 「シムシティのような提言」タイプの実例」(明治図書編『社会科教育』620号) 88-89頁	2010.12
研究発表等 (単独)		「現在と過去の対話としての社会科教育史研究—昭和26年版『日本史』が示唆するもの—」(全国社会科教育学会第59回全国研究大会(課題研究), 於: 同志社大学)	2010.10

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
角田 将士	研究発表等 (単独)	「NIE (Newspaper In Education) の望ましいあり方とは」(立命館学校教育研究会 2010年度分科会)	2010.11
	研究発表等 (単独)	「博物館を活用した社会科授業の創造—国際平和ミュージアムを事例として—」(立命館大学国際平和ミュージアム秋季特別展 講演会)	2010.11
加藤 雅俊	論文(単著)	「オーストラリア型福祉国家の再編分析・序説—二つの新自由主義的改革?—」(『新世代法政策学研究』第6号, 北海道大学) 203-253頁	2010.4
	論文(単著)	「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度(1)—制度変化の政治学的分析に向けて—」(『北大法学論集』61巻4号) 1-52頁	2010.11
	翻訳(単訳)	ライムート・ツォレンフェッファー著「保守主義的福祉国家レジームにおける福祉国家改革と雇用パフォーマンス:統一後のドイツを事例として」(『新世代法政策学研究』第6号, 北海道大学) 163-182頁	2010.4
	翻訳(単訳)	「国連の重要性:その位置」(ダニエル・アーキブージ『グローバル化時代の市民像—コスモポリタン民主政へ向け—』, 中谷義和監訳) 169-201頁(第6章), 全324頁	2010.11
	研究発表等 (単独)	「福祉国家再編における労働市場政策の変容とその要因—オセアニア両国を事例として—」(日本政治学会研究大会, 於:中京大学)	2010.10
金山 勉	著書(共著)	『白書出版産業2010—データとチャートで読む出版の現在』セクション73他のメディア産業との比較(日本出版学会編, 文化通信社) 204-207頁, 全231頁	2010.9
	論文(単著)	「インターネット時代のアメリカ・スポーツメディア」(『現代スポーツ評論』22号) 86-94頁	2010.5
	その他(単著)	「米ブロードバンド計画めぐり攻防:FCC, 未利用電波の自主的返還迫る」(『メディア展望』579号, 新聞通信調査会) 23頁	2010.4
	その他(単著)	「米ESPN, NYでウェブサイト開設:ブロードバンド時代見据えたスポーツ戦略」(『メディア展望』580号) 33頁	2010.5
	その他(単著)	「放送事業者連盟に4大ネット—米:FOXとCBSが11年ぶり復帰」(『メディア展望』581号) 10頁	2010.6
	その他(単著)	「3D TV放送, W杯でお目見え:米ケーブル大手ESPNが始める」(『メディア展望』582号) 23頁	2010.7
	その他(単著)	「米CNNが史上最高益:総合メディア展開が奏功」(『メディア展望』583号) 15頁	2010.8
	その他(単著)	「厳しさ増すメディア就職—米:24年間で最低水準—ジョージア大調査」(『メディア展望』584号) 13頁	2010.9
	その他(単著)		
権 学俊	著書(共著)	金ミスク他『全国体育大会の改善案に関する研究』(『日本の国民体育大会』, 国民体育振興公団) 70-82頁	2010.12
	論文(単著)	「近代日本における「国民」形成と兵式体操に関する一考察」(『日本語文学』49巻, 日本語文学会) 385-406頁	2010.5
	論文(単著)	「スポーツとナショナリズム, その親和性を問う」(『現代スポーツ評論』23号, 創文企画) 82-91頁	2010.11
	研究発表等 (単独)	「国民体育大会の歴史的変遷と政治性」(「植樹祭・インターハイ・国体」に反対する千葉の会, 千葉国体9・12市民集会, 於:松戸市女性センター)	2010.9
國廣 敏文	訳書(共訳)	『グローバル化時代の市民像』(ダニエル・アーキブージ著, 中谷義和監訳, 法律文化社) 139-165頁, 全324頁	2010.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
黒田 学	論文(単著)	「ベトちゃんドクちゃんだけでなく—日本ベトナム友好障害児教育福祉セミナー」(藤本文朗・桂良太郎・小西由紀編『ベトとドクと日本の絆』, 新日本出版社) 62-86頁	2010.11
	論文(単著)	「キューバの障害児教育を訪ねて(上)(下)」(『人間発達研究所通信』123号・124号, 人間発達研究所) 10-11頁・5-9頁	2010.12・2011.3
小泉 秀昭	研究発表等(同会パネリスト)	「フェアな広告取引実践のすすめ」(日本アドバイザーズ協会「フェアな広告取引実践のすすめ」出版記念講演会—広告業界再活性化に向けて今求められていること—, 於:東京ベルサール神田)	2010.5
斎藤 真緒	論文(単著)	『介護者支援の論理とダイナミズム—ケアとジェンダーの新たな地平—』(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 155-171頁	2010.6
	論文(単著)	「男性介護者調査研究から見えてきたこと—家族介護支援とのかかわりを中心に」(『認知症ケア最前線 vol.24』) 36-41頁	2010.12
	論文(単著)	「イギリスの家族介護者支援の取り組み」(『共同対人援助モデル研究1 家族介護者支援を考える—日本と英・豪・米の比較研究』, 立命館大学人間科学研究所) 5-15頁	2011.2
	論文(単著)	「男性介護者から考えるジェンダーの今日的課題」(『月刊女性&運動』2011年2月号, 新日本婦人の会) 25頁	2011.2
坂田 謙司	論文(単著)	「高齢化社会における安心・安全と地域メディア—ヒューマンセーフティにおける安心・安全問題への社会的アプローチ—」(『ヒューマンセーフティ研究』2010年3号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 15-29頁	2010.12
	研究発表等(単独, 国外)	「東京オリンピックのテレビ放送を巡る東アジアの交差—与那国島における台湾テレビ視聴と沖縄・日本・アジア—」(東アジア市民社会研究国際学術シンポジウム, 於:台湾・新竹)	2010.7
坂本 利子	研究発表等(単独)	「南アフリカの真実和解委員会と女性たちの証言」(言文研秋季連続講座「グローバル・ヒストリーズ—国民国家から新たな共同性へ—」「平和構築のために—ジェンダー・アプローチの可能性」, 立命館大学国際言語文化研究所)	2010.10
崎山 治男	著書(共著)	「感情を社会的に考える」(早坂裕子, 広井良典, 天田城介編『社会学のつばさ』, ミネルヴァ書房) 187-202頁	2010.7
	論文(単著)	「「心」を求める社会」(『社会学評論』61巻4号, 日本社会学会) 440-454頁	2011.3
櫻井 純理	著書(共著)	『労働再審①転換期の労働と〈能力〉』(本田由紀編, 大月書店) 95-131頁	2010.11
	著書(共著)	『スウェーデンとオランダに学ぶ人を大切にする社会システム』(佐藤吉宗編著, アットワークス) 62-65, 100-109頁	2010.12
	著書(共著)	「若者統合型社会的企業」の可能性と課題」(小杉利子ほか, 労働政策研究・研修機構) 45-64, 113-123, 163-166頁	2011.3
	書評(単著)	「山本隆著『ローカル・ガバナンス:福祉政策と協治の戦略』ミネルヴァ書房」(『社会政策』2巻3号, ミネルヴァ書房) 117-119頁	2011.3
	研究発表等(単独)	「NPOが担う「公共」とその「労働」—地方分権化と「協働」事業推進の観点から—」(日本労働社会学会第22回大会, 於:一橋大学)	2010.9
	研究発表等(単独)	「山本隆『ローカル・ガバナンス—福祉政策と協治の戦略』(ミネルヴァ書房, 2009年)」(日本社会政策学会第121回大会, 於:愛媛大学)	2010.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
櫻谷真理子	論文(単著)	「児童養護施設での被虐待児へのケア」(『生活指導事典』, エイデル研究所) 242-243頁	2010.8
	論文(単著)	「子ども虐待—介入と援助について考える」(『人権と部落問題』807号, 部落問題研究所) 6-15頁	2010.10
	研究発表等 (単独)	「児童養護の現状と生活指導の課題」(日本生活指導学会第28回大会, 於: 中京大学)	2010.9
笹野恵理子	論文(単著)	「子どもはどう学校音楽を経験するか—潜在的カリキュラム研究の視角から—」(『音楽文化の創造』60号, 音楽文化創世) 33-38頁	2011.3
	研究発表等 (単独)	「音楽教育研究において潜在的カリキュラム研究とは何か(6)—学校音楽文化の日報比較—」(日本音楽教育学会第41回大会, 於: 埼玉大学)	2010.9
鎮目 真人	論文(単著)	「2004年, 2009年改革による基礎年金制度の給付水準と改革のゆくえ—非経路依存変化類型に依って—」(『社会政策研究』10号, 東信堂) 49-70頁	2010.6
	論文(単著)	「私的年金の諸問題に関する論点整理」(『ヒューマンセーフティ研究』2010年3号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 31-40頁	2010.12
	論文(単著)	「国民年金の給付水準の漸減要因に関する新制度論的研究—国民年金創設時点から基礎年金改革まで—」(『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 43-58頁	2011.3
	研究発表等 (同会・パネリスト) 研究発表等 (単独)	「『参加と連帯のセーフティネット』構築に向けて」(同志社大学社会福祉教育・研究支援センター, 連合総合生活開発研究所主催) 「私的年金の制度類型—公的年金制度との関係から—」(日本社会福祉学会第58回全国大会, 於: 日本福祉大学)	2010.7 2010.10
篠田 武司	論文(単著)	「The Crisis of Social Cohesion in Japan under Globalization」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 123-137頁	2010.6
	論文(単著)	「スウェーデンに見る市民社会論」(『千葉大学経済研究』25巻3号, 千葉大学法経学会) 39-72頁	2010.12
	訳書(共訳)	ダニエル・アーキブージ著『グローバル化時代の市民像』(中谷義和監訳, 法律文化社, 8章担当) 226-246頁	2010.12
下條 正純	その他(共著)	「日本語教育における小説利用の意義と実践」(下條正純・坂井美恵子『日本語教育ニュースレター』第15号, 全国語学教育学会) 5-7頁	2010.12
	研究発表等 (単独, 国外)	「少女小説における女性文末辞と人物描写」(2010 ICJLE 世界日本語教育大会, 於: 台湾)	2010.7
	研究発表等 (共同)	「日本語教育における小説利用の意義と実践」(下條正純, 坂井美恵子, JALT 第36回年次国際大会, 於: 愛知県産業労働センター)	2010.11
高木 正朗	論文(単著)	「人数方定留(元禄七～明和二年) 翻刻」(2010年度文部科学省科学研究費・基盤研究(C), working paper II) 1-14頁	2011.3
	論文(単著)	「岩山文書目録(貞享三～大正十四年)」(2010年度文部科学省科学研究費・基盤研究(C), working paper III) 1-60頁	2011.3
	研究発表等 (単独)	「19世紀末50年間の人口動態分析—狐禅寺村「出減改帳」の活用—」(第4回 近世地域情報研究会, 於: 香川大学)	2010.8
高嶋 正晴	訳書(共訳)	ダニエル・アーキブージ著『グローバル化時代の市民像—コスモポリタン民主政へ向けて—』(中谷義和監訳, 法律文化社) 68-138頁	2010.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
高嶋 正晴	その他(単著)	「見る思う 広域連携で交流拡大を」(『神戸新聞』2011年2月28日朝刊)	2011. 2
竹内 謙彰	訳書(共監訳)	カタルツイナ・ハヴァースカ, アミ・クリン, フレッド・R・フォークマー編著『乳幼児の自閉症スペクトラム障害—診断・アセスメント・療育』(竹内謙彰・荒木穂積監訳, クリエイツかもがわ) 全438頁	2010. 8
	論文(共著)	「イェール大学子ども研究センターと自閉症研究」(竹内謙彰・荒木穂積共訳)(竹内謙彰・荒木穂積監訳, カタルツイナ・ハヴァースカ, アミ・クリン, フレッド・R・フォークマー編著『乳幼児の自閉症スペクトラム障害—診断・アセスメント・療育』, クリエイツかもがわ) 425-432頁	2010. 8
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児とその家族ニーズについての日本・中国・ベトナム3カ国の比較調査研究」(竹内謙彰他, 荒木穂積編著『平成20年度～22年度 アジア・アフリカ学術基盤形成事業(日本学術振興会) 東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究』(平成20年度～22年度 最終研究報告書, 立命館大学人間科学研究所)) 21-48頁	2011. 3
	論文(共著)	「中国における自閉症スペクトラム児童の発達支援に関する調査結果—保護者のアンケート調査結果—」(張鋭他, 荒木穂積編著『平成20年度～22年度 アジア・アフリカ学術基盤形成事業(日本学術振興会) 東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究』(平成20年度～22年度 最終研究報告書, 立命館大学人間科学研究所)) 49-69頁	2011. 3
	論文(共著)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関するインタビュー調査—日本の場合—」(荒木美知子他, 荒木穂積編著『平成20年度～22年度 アジア・アフリカ学術基盤形成事業(日本学術振興会) 東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究』(平成20年度～22年度 最終研究報告書, 立命館大学人間科学研究所)) 104-122頁	2011. 3
	学会発表等(共同)	「自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究(2)—自閉症スペクトラム児と知的障害児の比較検討—」(自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究(2)—自閉症スペクトラム児と知的障害児の比較検討—, 於: 松山東雲女子短期大学)	2010. 5
	学会発表等(共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(1)」(日本発達心理学会第20回大会, 於: 東京学芸大学)	2011. 3
	学会発表等(共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(2)」(日本発達心理学会第20回大会, 東京学芸大学, 於: 東京学芸大学)	2011. 3
竹濱 朝美	著書(共著)	『環境と消費者・入門消費経済学3』(石橋春男編著, 慶應義塾大学出版会) 13-40頁	2010. 4
	論文(単著)	「消費生活における温室効果ガス削減としての太陽光発電普及政策」(石橋春男編, 『環境と消費者・入門消費経済学3』第二章, 慶應義塾大学出版会) 13-40頁	2010. 4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹濱 朝美	論文(単著)	「再生可能エネルギーによる地方の自立, エネルギー自立: ドイツのユニークな取り組みから」(『人権と部落問題』62巻5号, 部落問題研究所) 41-48頁	2010.4
	論文(単著)	「太陽光発電に対するフィード・イン・タリフの買取費用: ドイツ型と日本型の比較」(『立命館産業社会論集』第46巻第2号) 1-24頁	2010
津田 正夫	論文(単著)	「新しい社会構造への意識を マスメディアと NPO の協働は可能か」(『新聞研究』705号, 新聞協会) 12-15頁	2010.4
	論文(単著)	「曲がり角に立つパブリック・メディア」(『アジア記者クラブ通信』220号, アジア記者クラブ) 17-19頁	2010.11
	論文(単著)	「アメリカの「メディアリフォーム」運動」(『放送レポート』228号, メディア総合研究所) 16-19頁	2011.1
	調査報告 (共著)	『アメリカの市民メディア2010』(アメリカの市民メディア2010調査団) 全59頁	2011.2
	その他(単著)	「オルタナティブ・メディア」「文字放送」「テレビ制作のしくみ」「パブリック・アクセス・チャンネル」(渡辺武達・山口功二・野原仁編『メディア用語基本事典』, 世界思想社) 70-71頁, 202-203頁, 207-208頁, 212-213頁	2011.1
	研究発表等 (講演)	審査委員長「第7回さかの聴覚障害者映像祭」(特定非営利活動法人・CS障害者放送統一機構, 於: コミュニティ嵯峨野)	2011.2.26
	研究発表等 (講演)	審査委員長「碧海・西尾幡豆映像祭Vフェス2008」(碧海・西尾幡豆映像祭実行委員会, 於: 刈谷市産業振興センター)	2011.2.27
	研究発表等 (講演)	「曲がり角に立つアメリカのパブリック・メディア」(特定非営利活動法人 NPO 研修・情報センター, 於: 中野ゼロホール)	2010.10.30
	筒井 淳也	著書(共著)	伊藤公雄(編)『コミュニケーション社会学入門』(第3章「情報管理のコミュニケーション: ゴッフマン」, 世界思想社) 65-88頁
著書(共著)		“Asymmetric Mixture: Determinants of Attitudes toward Inter-marriage in Japan”, in Makiko Iwatake (ed.) Gender, Mobility and Citizenship in Asia. (Makiko Iwatake (ed.), Renvall Institute Publications) pp.273-293	2010.7
著書(共著)		佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編著『結婚の壁』第5章・第6章(「結婚願望は弱くなったか」・「結婚についての意識のズレと誤解」, 勁草書房) 97-109頁, 110-128頁	2010.10
論文(共著)		「家事分担に対する不公平感の国際比較分析」(不破麻紀子, 筒井淳也, 『家族社会学研究』22巻1号, 日本家族社会学会) 52-63頁	2010.4
研究発表等 (単独)		“Changes in Agenda in Work-Life Issues in Japan: toward an effective solution to the problems of East Asian welfare system” (Junya Tsutsui, The 1st Annual Conference of The International Association for Asia Pacific Studies)	2010.11
研究発表等 (単独)		「マイクロデータに対するマルチレベルモデルの適用可能性: NFRJ08による親子関係良好度の分析」(第51回数理社会学会大会, 於: 沖縄国際大学)	2011.3
研究発表等 (共同)		“Relationship of Couples' Housework in 17 Countries” (Yukiko Asai, the University of Tokyo; Masaaki Mizuochi, Mie University; Junya Tsutsui, Ritsumeikan University, 2010 Annual Meeting of Population Association of America)	2010.4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	研究発表等 (共同)	“The Transitional Phase of Mate Selection in East Asian Countries” (Junya Tsutsui, Yu-Hua Chen, Chi-Young Koh, XVII ISA World Congress of Sociology)	2010. 7
	研究発表等 (共同)	“What Makes Wives Do More Housework in Some Countries and Less in Others? Complementary Relationships in Couples’ Housework” (Yukiko Asai, the University of Tokyo; Masaaki Mizuochi, Mie University; Junya Tsutsui, Ritsumeikan University, European Population Conference 2010)	2010. 9
津止 正敏	著書(共著)	『オトコの介護を生きるあなたへ—男性介護者100万人へのメッセージ『介護で孤立しないネットワークづくり』(クリエイツかもがわ) 102-112頁	2010. 4
	論文(単著)	「男性介護者100万人時代」(『部落解放』630号, 解放出版社) 70-73	2010. 6
	その他(単著)	「(福祉論壇) 男性介護者100万人への支援を考える」(『月刊福祉』93巻11号, 全国社会福祉協議会出版部) 46-47頁	2010. 9
仲井 邦佳	翻訳(単訳)	「第45章 比較構文, 最上級構文, 結果構文」(『新スペイン語文法(2009) 章別和文要約』5, 関西スペイン語学研究会) 468-482頁	2011. 3
	その他(単著)	「スペイン語講座(1) 不規則動詞の活用について」(『Acueducto』創刊号, Adelante) 9頁	2010. 5
	その他(単著)	「スペイン語講座(2) 目的の代名詞について」(『Acueducto』2号, Adelante) 24-25頁	2010. 8
	その他(単著)	「スペイン語講座(3) gustar 型動詞について」(『Acueducto』3号, Adelante) 30頁	2010.11
	その他(単著)	「スペイン語講座(4) 無人称表現について」(『Acueducto』4号, Adelante) 26-27頁	2011. 2
中井 美樹	論文(単著)	「女性のキャリア動向—「社会階層と社会移動全国調査」データから見る女性の就業実態とその変容—」(『季刊 家計経済研究』89号, 家計経済研究所) 11-21頁	2011. 1
	研究発表等 (単独, 国外)	“Socio-economic and Gender Differences in Voluntary Participation in Japan” (German-Japanese Workshop, Karlsruhe Institute of Technology)	2010. 7
	研究発表等 (単独, 国内)	「社会調査データのクラスター分析—ライフスタイルを中心に—」(企画セッション「統計的分類手法の新展開とその応用」)(2010年度統計関連学会連合大会, 於: 早稲田大学)	2010. 9
中西 典子	著書(共著)	『愛媛大学「研究室からこんにちは!」4—愛媛大学最前線からのレポート—」(担当部分: 「高福祉に向けた地域づくりに社会学の視点からアプローチし, イギリスに学んだ民間組織の自発性や自立性を日本との比較で考える」)(愛媛大学監修, アトラス出版) 365-380頁	2010. 5
	論文(単著)	「英国における官民/公私関係の再構築とパートナーシップ政策の課題—ロンドン東部タワー・ハムレッツ区の事例をもとに—」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 19-46頁	2010. 6
	書評(単著)	鯉坂学・小松秀雄編『京都の「まち」の社会学』(『地域社会学年報』22号, 世界思想社) 183-184頁	2010. 5
	書評(単著)	現代生協論編集委員会編『現代生協論の探求—新たなステップをめざして』(くらしと協同の研究所所報『協う』120号, コープ出版) 15頁	2010. 8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中西 仁	論文(单著)	「[ADHD という憂鬱]—その後」(『こべる』210号, こべる刊行会) 1-10頁	2010.9
仲間 裕子	論文(单著)	“Euphoria of Public Art” (The Journal of Asian Arts & Aesthetics Vol. 3, Airiti Press Inc., Taipei) pp. 29-35	2010
	論文(单著)	“Rethinking the Aesthetics of Nature as a ‘Global’ Vocabulary: The Discourse of Romantic Representation”, Jos de Mul and Renée van de Vall (eds.), Gimme Shelter: Global Discourses in Aesthetics, International Association for Aesthetics, Amsterdam, http://www.iaaesthetics.org/publications/proceedings , 2010.	2010
	論文(单著)	“Preface: Nature and Landscapes — How Nature could become Visible and Perceptible” (The Journal of Asian Arts & Aesthetics, vol. 4, 2010) pp. IX-XI	2010
	その他(单著)	ヨーゼフ・ボイス～「パラレル・プロセス Parallel Prozesse」展(『視覚の現場—四季の綻び』第8号) 48-49頁	2011.3
中村 正	論文(单著)	「親密な関係性における虐待・暴力と加害者臨床論—虐待的パーソナリティ論の検討をとおして—」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 139-153頁	2010.6
	論文(单著)	「社会臨床の視界(1) 歴史のなかの臨床課題」(『対人援助学マガジン(デジタル)』1号, http://www.humanservices.jp/magazine/vol1/2.pdf , 対人援助学会)	2010.7
	論文(单著)	「社会臨床の視界(2) 「あいだ」への関心—加害者臨床—」(『対人援助学マガジン(デジタル)』2号, http://www.humanservices.jp/magazine/vol2/2.pdf)	2010.10
	論文(单著)	「加害者臨床のめざすこと—DV・虐待に焦点を当てた脱暴力への支援をとおして—」(『季刊刑事弁護』64号, 現代人文社) 57-60頁	2010.10
	論文(单著)	「社会臨床の視界(3) 社会臨床という思考のレッスン—メビウスの輪のようにねじれてつながる関係性を理解する—」(『対人援助学マガジン(デジタル)』3号, http://www.humanservices.jp/magazine/vol3/2.pdf)	2010.12
	論文(单著)	「社会臨床の視界(4) 社会の詩的言語としての臨床と表象」(『対人援助学マガジン(デジタル)』第1巻第4号, http://www.humanservices.jp/magazine/vol1/4.pdf , 対人援助学会)	2011.3
	論文(单著)	「相互作用と暴力—微視点社会学の視点—」(『世界人権問題研究センター紀要』第16号, 世界人権問題研究センター) 105-131頁	2011.3
	研究発表等(単独)	「司法臨床の可能性—加害者治療の観点から」(法と心理学会第11回大会, 於: 立命館大学)	2010.11
	研究発表等(共同)	「対人援助における身体と生活」(中村正, 徳永健介, 日本対人援助学会第2回大会, 於: 立命館大学)	2010.11
	その他(共著)	『生活指導事典—生活指導・対人援助に関わる人のために』(生活指導学会著・竹内常一編集, エイデル研究所) 執筆項目「DV加害者の男性へのグループワーク」全318頁	2010.8
中山 一樹	その他(事典項目)	「高校中退と高校教育の課題」(日本生活指導学会編『生活指導事典』, エイデル研究所) 28-29頁	2010.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
永橋 爲介	論文(共著)	「2000年代におけるフィルム・コミッション論の検証」(永橋爲介・神谷雅子・宮西恵津子, 『立命館産業社会論集』第46巻第4号) 59-83頁	2011. 3
	その他(共著)	「マザーレイク21計画(第2期計画期間)の進行管理のあり方に関する提案」(琵琶湖流域管理シナリオ研究会, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 全14頁	2011. 1
	その他(共著)	「「スローライフ京都」大作戦 乗ってみよう IN 南太秦 DE 市バス報告書」(京都市右京区役所・京都市交通局, 京都市) 全141頁	2011. 2
	その他(共著)	「描いてみよう! 2020年の暮らしと琵琶湖」シンポジウム記録集(琵琶湖流域管理シナリオ研究会, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 全83頁	2011. 3
浪田 陽子	論文(単著)	「カナダのメディア・リテラシー: 世界の最先端をゆくメディア教育」(飯野正子・竹中豊編著『現代カナダを知るための57章』, 第18章担当, 明石書店) 129-132頁	2010.11
野田 正人	論文(単著)	「中国の一人っ子政策と子育てをめぐる状況(1)」(『月刊福祉』第93巻第10号, 全国社会福祉協議会) 88-91頁	2010. 8
	論文(単著)	「中国の一人っ子政策と子育てをめぐる状況(2)」(『月刊福祉』第93巻第11号, 全国社会福祉協議会) 88-91頁	2010. 9
	論文(単著)	「中国の一人っ子政策と子育てをめぐる状況(3)」(『月刊福祉』第93巻第12号, 全国社会福祉協議会) 88-91頁	2010.10
	その他(単著)	「児童虐待—生徒指導提要」(『教職課程』2011年1月号, 協同出版) 38頁	2011. 1
長谷川千春	著書(共著)	「国民皆保険システムのほころび」(渋谷博史/櫻井潤/樋口均編『グローバル化と福祉国家と地域』, 学文社) 138-157頁	2010. 4
	論文(単著)	「アメリカの医療保障—雇用主提供医療保険の空洞化とオバマ医療保険改革」(『海外社会保障研究』171巻, 国立社会保障・人口問題研究所) 16-32頁	2010. 6
	研究発表等(単独)	「オバマ医療保険改革の本質—企業保障の空洞化の現状から」(日本財政学会第67回大会, 於: 滋賀大学彦根)	2010.10
原尻 英樹	資料紹介(単著)	「街づくりの必要性の根拠について: 京都市東九条地区のコリアン系住民による街づくり」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 219-237頁	2010. 6
	研究発表等(単独)	“Japanese Colonial Anthropology and Its Descendants” (The Pacific-Asia Conference on Korean Studies 2010 in University of Auckland, New Zealand, Auckland University)	2010.11.24-26
東 自由里	論文(単著)	「「負の遺産」に宿る想像力はナショナリズムを超える」(『博物館研究』46巻2号, 日本博物館協会) 16-17頁	2011. 1
	論文(共著)	「グローバルシティにおける移民社会の動態と構造: ニューヨークとフランクフルトを事例として」(東自由里, 進藤修一, 『立命館国際地域研究』33巻) 53-68頁	2011. 3
	研究発表等(単独)	“Preparing Participatory & Social-Justice Oriented Citizens: Perspectives from Asia-Pacific Societies” (East West Center/ East West Center Association 50th Anniversary International Conference: “Leadership and Community Building in the Asia Pacific Region” Hawai'i Convention Center, Honolulu)	2010. 7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
樋口 耕一	論文(単著)	「SRDQの使い方」 「3重クロス集計表とエラーポレーション」 (川端亮編著『データアーカイブ SRDQ で学ぶ社会調査の計量分析』第1章・第2章担当, ミネルヴァ書房) 1-30頁	2010.4
	論文(単著)	「現代における全国紙の内容分析の有効性—社会意識の探索はどこまで可能か—」 (『行動計量学』38巻1号, 日本行動計量学会) 1-12頁	2011.3
	論文(単著)	「計量テキスト分析の提案と必要なソフトウェアの開発」 (『ソシオロジ』55巻3号, 社会学研究会) 102-108頁	2011.3
	研究発表等(単独)	「分析機能を柔軟に改変・追加できる計量テキスト分析の環境『KH Coder』」 (日本行動計量学会第38回大会, 於: 埼玉大学)	2010.9
	研究発表等(単独)	「計量テキスト分析の環境『KH Coder』開発の理念と課題」 (2010年度統計関連学会連合大会, 於: 早稲田大学)	2010.9
	研究発表等(共同)	「児童養護施設における暴力の実態 II 一次年度の傾向—」 (日本子ども虐待防止学会 第16回学術集会くまもと大会, 於: 熊本県立劇場)	2010.11
日暮 雅夫	訳書(共訳)	ゲアハルト・シェーンリッヒ著『カントと討議倫理学の問題』(加藤泰史監訳「第四章 討議倫理学と悪の問題」, 晃洋書房) 133-169頁	2010.9
	論文(単著)	「批判理論における労働の問題—アクセル・ホネットの労働論」 (『唯物論研究年誌』15号, 大月書店) 179-200頁	2010.10
	研究発表等(単独)	「批判的社会理論と格差社会—ホネットの社会理論」 (関西唯物論研究会2010年5月例会, 於: 吹田市立勤労者会館)	2010.5
	研究発表等(単独)	「批判的社会理論における承認論的転回—アクセル・ホネットの社会理論—」 (2010年度第3回産業社会学部共同研究会)	2010.6
	研究発表等(単独)	「フランクフルト学派第三世代の理論構成—アクセル・ホネットの承認論—」 (2010年度早稲田大学哲学学会大会, 於: 早稲田大学)	2010.7
	研究発表等(単独)	「批判理論における労働の問題—アクセル・ホネットの労働論—」 (2010年度社会文化学会夏期研究集会, 於: 笹の墓標展示館)	2010.8
	研究発表等(単独)	「公共圏における討議倫理の展開に必要なもの—原子力問題における専門家と市民との対話に関して—」 (科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」討議論理科研第2回研究会)	2010.10
	論文(単著)	「Yearning for Yesterday: Representations of Tokyo Tower within Unfinished Modernity of Shōwa Nostalgic Media」 (『立命館産業社会論集』第46巻第2号) 26-46頁	2010.9
日高 勝之	研究発表等(単独)	「『昭和30年代ブーム』の批判的検討—「郷愁」が孕む未完イメージをめぐる考察—」 (日本コミュニケーション学会第40回記念年次大会, 於: 明治大学)	2010.6
	研究発表等(単独)	「政治の季節の「終わり」と「始まり」—新自由主義と1970年代後半以降の米英日の映画—」 (立命館大学研究推進強化プロジェクト「昭和50年代のメディア文化」研究会)	2011.3
	研究発表等(単独)	「A Critical Review of How Twenty-first Century Japanese Films and Television Dramas Depict the 1960s school movement」 (European and Japanese Avant-garde Cinemas: Convergence and Divergence, London, the UK)	2011.3
	論文(単著)	「Postlexical Prosodic Structure and Vowel Devoicing in Japanese」 (『音韻研究』13号, 日本音韻学会編, 開拓社) 99-102頁	2010.8
平山真奈美	研究発表等(単独)	「Vowel devoicing in Japanese and postlexical alterability of syllable structure」 (第141回日本言語学会大会, 於: 東北大学)	2010.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
深澤 敦	論文(単著)	「フランスにおける1930年代の大恐慌と社会保険・家族手当」(『歴史と経済』第207号) 12-20頁	2010. 4
	学会報告(単独)	「フランスにおける家族手当と家族政策の歴史的展開」(社会政策学会第120回大会第9分科会報告, 於: 早稲田大学)	2010. 6. 20
福間 良明	論文(単著)	「戦後沖縄と戦争体験論の変容(2・完)—『沖縄の悲劇』『沖縄健児隊』の刊行」(『立命館産業社会論集』第46巻第1号) 173-191頁	2010. 6
	論文(単著)	「「広島」「長崎」の論争とローカル・メディア—「被爆体験」をめぐる饒舌と沈黙」(『メディア史研究』29号, ゆまに書房) 37-54頁	2011. 2
宝月 誠	論文(単著)	「事例研究から仮説構成の可能性—シカゴ学派の方法論を中心に—」(『立命館産業社会論集』第46巻第3号) 39-61頁	2010.12
	論文(共著)	「食品企業の逸脱に関する仮説の再検討—食の安全性—」(『ヒューマンセーフティ研究』3号, 立命館大学産業社会学部) 41-59頁	2010.12
	書評(単著)	「森田洋司監修『新たな排除にどう立ち向かうのか—ソーシャル・インクルージョンの課題と可能性』」(『現代の社会病理』25号, 日本社会病理学会) 139-142頁	2010. 9
	その他(単著)	「ラベリング:ベッカー」(『社会学事典』, 日本社会学会, 社会学事典刊行委員会編) 149頁	2010. 6
	その他(単著)	「「常識」による推論—シカゴ学派は古いのか—」(『社会と調査』6号, 社会調査協会) 99頁	2011. 3
イアン・ホザック	論文(単著)	“Deliberating the Issues in Japan” (『Teaching Citizenship』27号) pp.21-25	2010. 6
	論文(単著)	“Foreign language teaching for global citizenship” (『政策科学』18巻3号, 立命館大学政策学会) 125-140頁	2011. 3
	研究発表等(単独)	“Deliberating the Issues: Deliberative Polls for the English Language Classroom.” (Ian Hosack, 9th JALT Pan-SIG Conference)	2010. 5
	研究発表等(単独)	“Identifying a Role for Japanese English Teachers in Citizenship Education” (Education Research Group, University of York)	2011. 2
前田 信彦	著書(単著)	『仕事と生活—労働社会の変容』(ミネルヴァ書房) 全299頁	2010.12
	研究発表等(単独)	「高齢期のライフコース選択—職業能力と定年後の地域参加—」(ドイツ日本研究所(DIJ)・明治大学「ライフコース選択の臨界点—生き方はどこまで自由に選べるのか—」)	2010.10
増田 幸子	研究発表等(単独)	「少女マンガで語られた「戦争」」(2010世界日本語教育大会, 於: 台湾)	2010. 8
松田 亮三	著書(共著)	『時代の流れを読む—自律と連帯の好循環—』(NIRA 研究報告書)(総合研究開発機構) 77-92頁	2010. 4
	論文(単著)	“Life-style choices and falls” ‘Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of Older People’ (Katsunori Kondo, Balwyn North, Trans Pacific Press) pp.37-50	2010
	論文(単著)	「2006年医療改革における医療の責任と財源調達の変化」(『保健医療社会学論集』21巻1号, 日本保健医療社会学会) 1-8頁	2010.10
	論文(単著)	「社会格差・健康格差と医療保険」(『埼玉の国保』No.241) 2-5頁	2011. 2
松葉 正文	訳書(共訳)	ユルゲン・コッカ著『市民社会と独裁制: ドイツ近現代史の経験』(山井敏章と共訳, 岩波書店) 全200頁	2011. 2

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
丸山 里美	著書(共訳)	『スラムの惑星』(酒井隆史他, 明石書店) 全352頁	2010.5
	著書(单著)	『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』(青木秀男他, 「ジェンダー化された排除の過程—女性ホームレスという問題」, ミネルヴァ書房) 202-232頁	2010.11
湊 邦生	論文(单著)	“Affinity With A Neighbor Approaching From Afar — The Japanese Attitude Toward Mongolia Seen From Survey Data” (『立命館産業社会論集』第46巻第3号) 68-80頁	2010.12
峰島 厚	著書(共著)	『どうつくる? 障害者総合福祉法—権利保障制度確立への提言—』(「序 障害者自立支援法廃止をめぐる動向をどうみるのか」障害者生活支援システム研究会編, かもがわ出版) 8-18頁	2010.5
	論文(单著)	「基調報告 障害者自立支援法の廃止と今後の障害者施策」(「フォーラム 地域での生活支援を豊かに」(『第19回京都市知的障害児者福祉研修大会報告書』, 財団法人京都手をつなぐ育成会) 4-11頁, 11-28頁	2010.4
	論文(单著)	「廃案に持ち込んだ自立支援法改正案」(全国障害者問題研究会編『みんなのねがい』2010年8月号(523号), 全国障害者問題研究会出版部) 4-5頁	2010.8
	論文(单著)	「基調報告 障害者自立支援法廃止と今後の障害者施策」(『第13回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会報告集』, 大阪・京都・埼玉・東京聴覚障害者福祉事業協会) 7-27頁	2010.10
	論文(共著)	「障害者福祉現場の職員が遭遇する出来事とメンタルヘルス」(大岡由佳・山本耕平・峰島厚・加藤寛『心的トラウマ研究』第6号, 兵庫こころのケアセンター) 41-52頁	2010.11
	論文(共著)	「障害者福祉の財源は? 今後の制度改革の方向は?」(全国障害者問題研究会編『みんなのねがい』2010年12月号(527号), 全国障害者問題研究会出版部) 34-35頁	2010.12
	調査報告 (共著)	「福祉施設職員のメンタルヘルス対策を考える—メンタルヘルスアンケートから見えてくるもの—」(峰島厚・山本耕平・大岡由佳『大阪障害者センター2010年度管理者セミナー報告集』, NPO 法人大阪障害者センター) 1-13頁	2010.9
	調査報告 (共著)	「メンタルヘルスアンケート結果からみえてくるもの」(大阪障害者センターメンタルヘルス検討会((峰島厚・大岡由佳・山本耕平), NPO 法人大阪障害者センター)) 1-6頁	2010.11
	調査報告 (共著)	「障害者施設職員のメンタルヘルス調査報告書」(大阪障害者センター「福祉現場のメンタルヘルス検討会」((代表峰島厚・山本耕平・大岡由佳・北垣智基・深谷弘和)), NPO 法人大阪障害者センター) 1-133頁	2011.3
	学会発表 (共同)	「障害者施設職員の労働状況とメンタルヘルス対策」(大岡由佳・山本耕平・峰島厚, 第58回日本社会福祉学会秋季大会, 日本福祉大学)	2010.10.10
	研究発表等 (共同)	「障害者福祉従事者のメンタルヘルスに関する研究—自由記述にみる福祉労働とストレス—」(深谷弘和, 山本耕平, 峰島厚, 大岡由佳, 第26回日本ストレス学会学術総会, 九州大学)	2010.11.5
研究発表等 (共同)	「自由記述にみる障害者福祉従事者のストレス・コーピング—年代差・職階差に注目して—」(深谷弘和, 山本耕平, 峰島厚, 2010年度関西社回福祉学会年次大会, 於: 仏教大学)	2011.3.12	

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
森田 真樹	論文(単著)	「『現代社会』教育の諸問題・論争点」(社会認識教育学会編『公民科教育』, 学術図書出版) 70-79頁	2010. 9
	論文(単著)	「教職大学院における教員養成の現状と課題」(『立命館高等教育研究』第11号, 立命館大学教育開発推進機構) 41-55頁	2011. 3
	書評(単著)	「日本国際理解教育学会編『グローバル時代の国際理解教育』」(日本グローバル教育学会編『グローバル教育』13号) 78-79頁	2011. 3
柳澤 伸司	論文(単著)	「メディアとNIEの関係—NIEは新聞をどう変えるか—」(『日本NIE学会誌』第6号, 日本NIE学会) 125-126頁	2011. 3
	研究発表等 (シンポジウム)	「メディア社会とNIE」(日本NIE学会, 於: 京都教育大学)	2010.11.27
山下 秋二	論文(共著)	「Jクラブの創出過程と地域特性—浦和レッズを事例に—」(『体育経営管理論集』2巻, 日本体育学会体育経営管理専門分科会) 71-80頁	2010. 6
	論文(共著)	「Jクラブ経営のイノベーション・プロセス—地域スポーツクラブとしての発展に向けた新たな事業化モデルの検討—」(『体育経営管理論集』3巻, 日本体育学会体育経営管理専門分科会) 1-10頁	2011. 3
山下 高行	論文(共著)	「マルクス主義的スポーツ研究の課題と展望: 日本とイギリスの研究からその変遷と課題を素描する」(市井吉興・山下高行『スポーツ社会学研究』19巻第1号, 日本スポーツ社会学会, 創文企画) 55-72頁	2011. 3
	研究発表等 (単独)	“Indeterminate Nationalism Represented in the Fine de siecle Olympic Games in Japan” (11th World Leisure Congress ChunCheon 2010 held in Chun Cheon, Korea from August 28 to September 2 2010)	2010. 8
	その他(単独)	「スポーツと政治」(『社会学事典』日本社会学会社会学事典刊行委員会編, 丸善) 574-575頁	2010. 6
山下 芳樹	著書(分担執筆)	『物理の疑問(非身近編)』(左巻健男・山下芳樹他15名, 技報社) 全222頁	2010. 4
	著書(共著)	『実験で実践する「魅力ある理科教育(小中学校編)」』(川村康文, 山下芳樹, 秋吉博之, 萩原彰と共編著, オーム社) 全253頁	2010. 9
	論文(共著)	「擬人化と体験学習」(坂東昌子・山下芳樹他4名, 『京都大学高等教育研究』16号, 京都大学) 49-60頁	2010.12
	論文(共著)	「自然現象の可視化—親子理科実験教室から学ぶ—」(山下芳樹・坂東昌子他4名, 『立命館高等教育研究』第11号, 立命館大学) 199-212頁	2011. 3
	報告書(共著)	「『科学実験教材研究年報』発刊に何を期待するか—NPO法人サイエンスEネットの挑戦—」(山下芳樹・川村康文・松林昭・藤原清・網倉聖子『科学実験教材研究年報』, NPO法人サイエンスEネット)	2010. 3
	研究発表報告書 (単独)	シンポジウム『今を未来につなぐ「実感できる」理科教育プログラムの開発—最先端科学と伝統の交差する街, 京都からの提言—」(立命館大学) 全137頁	2011. 3
	書評(単著)	「物質から生命へ—20世紀科学史の転換と日本—」(化学同人) 58頁	2010. 4
	その他(単著)	「科学の英知に出逢う場としてのミュージアム—実感をともなった理解のために—」(『平和ミュージアム』, 立命館大学平和ミュージアム) 26-27頁	2010.10
	その他(単著)	「何が問題『理科離れ』」(『京都リビング』第1527号, 2010年10月30日)	2010.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
山本 耕平	著書(共著)	『どうつくる？ 障害者総合福祉法―権利保障制度確立への提言』(鈴木勉・峰島厚他, かもがわ出版) 125-131頁	2010.5
	著書(共著)	『精神保健福祉白書 2011年版』(精神保健福祉白書編集委員会, 中央法規) 41頁	2010.12
	論文(共著)	「障害者福祉現場の職員が遭遇する出来事とメンタルヘルス」(大岡由佳・山本耕平・峰島厚・加藤寛『心的トラウマ研究』第6号, 兵庫こころのケアセンター) 41-52頁	2010.11
	論文(共著)	「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって―若者問題に関する韓日間比較調査から―第1報」(山本耕平・Insoo Lee・安藤佳珠子, 『立命館産業社会論集』第46巻第4号), 21-42頁	2011.3
	論文(共著)	「障害者施設職員のメンタルヘルス調査報告書」(大阪障害者センター「福祉現場のメンタルヘルス検討会」(代表峰島厚・山本耕平・大岡由佳・北垣智基・深谷弘和), NPO 法人大阪障害者センター) 1-133頁	2011.3
	学会発表 (共同)	「障害者施設職員の労働状況とメンタルヘルス対策」(大岡由佳・山本耕平・峰島厚, 第58回日本社会福祉学会秋季大会, 於: 日本福祉大学)	2010.10.10
	学会発表 (共同)	「障害者福祉従事者のメンタルヘルスに関する研究―自由記述にみる福祉労働とストレス―」(深谷弘和・山本耕平・峰島厚・大岡由佳, 第26回日本ストレス学会学術総会, 於: 九州大学)	2010.11.5
学会発表 (共同)	「自由記述にみる障害者福祉従事者のストレス・コーピング―年代差・職階差に注目して―」(深谷弘和・山本耕平・峰島厚, 2010年度関西社会福祉学会年次大会, 於: 仏教大学)	2011.3.12	
リム ボン	論文(単著)	「京都・第三期超再生への道―環境・人権・平和のための京都論―」(『立命館産業社会論集』第46巻第2号) 133-142頁	2010.9
	論文(単著)	「京都の自画像を描く―歴史都市の可能性―」(『ヒューマンセーフティ研究』2010年10月, 立命館大学産業社会学部) 1-14頁	2010.10
	論文(単著)	「新・医療生協論―変革のパラダイム (特集 医療生協の新たな挑戦)」(『生活協同組合研究』418号, 生協総合研究所) 5-11頁	2010.11